



新大学3年生 仲間とアート

日福大と佐賀の障害者施設が共同制作

コロナ禍が始まった直後に大学生活を始めた学生に向け、仲間づくりを兼ねた「アート体験」のイベントが3月29日、日本福祉大学(美浜町)であった。社会福祉学部の新3年生約240人が2回に分かれ、巨大なキャンバスに自由に色を塗っていった。

新3年生は、オンライン授業も多く、「大学生になってからずっと我慢が続いてきた学年」と野尻紀恵・社会福祉学部長は言う。大学によると、学内でコロナに関する聞き取りをした際に「行き帰りが1人」「友達がいらない」という声が多々あったという。通常なら入学当初にある宿泊型セミナーもできず、今回改めてつながりが得られる場をつくった。

学生たちは、縦1・8メートル、横10メートルのビニールキャンバスに水性ペンキで色をつけた。それをもとに、卒業生の原田啓之さんが施設長を務める佐賀県の障害者施設「P I C F A (ピクファ)」のアーティストたちが作品を仕上げていった。

イベントの実行に携わった新4年の松本大樹さんは「1年生のときは勉強以外の時間で得るものも多かった。この2年間は寂しさも感じながら学生生活を送ってきたので、このイベントが(仲間づくりの)きっかけになれば」。

談笑しながら色を塗っていった学生たち。新3年の橋本潔さんは「入学後は、なかなかみんなとの接点がなかった。オンラインだとグループ討論をしても、終われば関係が切れてしまっていた」。イベントの終盤には「知らなかった人とも話ができたし、楽しい時間」と目を細めた。

「絵を描くだけでなく、学生が集えるように段ボールを敷いていた」と野尻さん。「こういうささいな隙間時間が大事だと改めて感じた。画面越しだけの子ども多かった中で、こんな笑顔だったのかと、みんなが確かめ合っている感じがした」(上山浩也)

日本福祉大学の学生とP I C F Aのアーティストたちが描いた作品
自由に描いていく学生たちもいずれも美浜町